

ベトナム語母語話者における 漢越語の意味把握に関する質的調査

— 日本語学習への利用可能性の再検証 —

天野裕子（沖縄大学）・道上史絵（立命館大学）

チャン クォック ヒエップ（大阪大学大学院生）・比留間洋一（静岡大学）

要 旨

本研究は、ベトナム語母語話者における漢越語の意味把握の実態を明らかにし、日本語学習への利用可能性を再検証することを目的としている。日本語と最も一致度が高いとされる漢越語 764 語について親密度調査を行い、その結果をもとに上位・下位 10% ずつ計 152 語の意味再現調査を実施した。その結果、親密度が高い語でも日本語の意味とずれが見られる語や、親密度が低く意味が把握できない語があることが明らかになった。これにより、辞書上の語義の一致だけでは漢越語の日本語学習への利用可能性を判断できず、学習者の言語使用実態に即したより細やかな調査の必要性が示唆された。漢越語は日本語学習に有用な語がある一方、日本語学習への利用が困難な語もあれば、誤解に繋がる語もあると考えられ、一概にベトナム語母語話者の漢字語教育・学習に漢越語が利用可能とは言えないことが明らかとなった。

【キーワード】 ベトナム語母語話者 漢越語 語彙習得

1. はじめに

本研究の目的は、ベトナム語母語話者における漢越語（漢語由来の語）の意味把握の実態を明らかにし、日本語学習に利用可能な漢越語知識について再検証することである。ベトナム語には現在チュークォックグー（Chữ Quốc ngữ）と呼ばれるアルファベットが用いられるが、かつては漢字漢文が公式に使用されていた。また、語彙は純粹ベトナム語¹⁾ 漢語由来の語（漢越語）、西洋語由来の語の三種類からなり（佐藤 2019）、漢越語はベトナム語全体の約 7 割を占めると言われる（冨田 2001）。漢越語の例として、ベトナム語の Ý CHÍ は Ý に漢字の「意」、CHÍ に「志」が対応し、「意志」の意味で使用され、HÓA HỌC は HÓA に「化」、HỌC に「学」が対応し、「化学」を意味する。このような漢越語の中には、日本語の漢字語と意味が一致または類似するものがあり、音韻面でも現代日本語の漢字語音と類似した点があることから、ベトナム語母語話者の漢字や語彙の教育・学習に利用可能であるとされてきた（Phan 2006、松田 2016）。

しかしながら、これまでの研究は言語の対照に留まり、学習する当事者であるベトナム語母語話者の言語使用実態という視点が欠けていたと考える。ファン他 (2022) は、ベトナム語母語話者の漢越語利用について、「日常的に接することのない漢越語だとベトナム語の意味がすぐ把握できないので、即利用可能とはならないよう」(p. 68) だと述べている。上述のように漢越語の知識は日本語学習への利用が可能であるとされるが、類似性を根拠にした日本語学習への利用可能性は、学習者であるベトナム語母語話者がまず漢越語の意味を知っている、つまり漢越語と意味が結びついて把握されていることが前提となる。日常的に接することがなく、意味が把握できない漢越語については、日本語の漢字語の意味や音韻がいくら類似していたとしても、学習者の知識を活用することは不可能である。そのため、活用法について検討するには、ベトナム語母語話者の漢越語の意味把握の実態をまず明らかにする必要がある。本研究はそれを明らかにし、得られた知見をベトナム語母語話者のための日本語教育に応用することを射程としている。

2. 先行研究

松田 (2016)、松田他 (2008) では、旧日本語能力試験出題語彙 (約 8000 語) に含まれる二字漢字語とベトナム語の漢越語との異同を調査しており、同文字²⁾・同意義である語 (以下 AB/AB とする) が 1331 語あり、それが 1、2 級の語彙に多く含まれることを明らかにした。このことから、ベトナム語母語話者にとって漢越語知識が有利に働くのは中級後半～上級であると述べており、日本語の漢字の音読みの音とベトナム語の漢越音との対応の知識が得られる初級後半以降に、日本語の漢字語の類推力や語彙習得が加速するであろうことも示唆している。しかし、学習ストラテジーに関するインタビュー調査からは、漢字語の音や意味の推測に漢越語の知識を積極的に利用する学習者がいる一方で、推測が間違ってしまう可能性やその語の意味が容易にイメージできない語があることから、積極的に使用しない、または初級から中級、上級へと学習が進んで使用しなくなったという学習者もいることがわかっている (天野 2021、ファン他 2022)。このように、漢越語の知識の活用可能性は指摘されており、実際に学習ストラテジーとして利用している学習者がいるものの、同時にほとんど利用していない学習者も存在していることが明らかにされてきた。しかし、学習者の持つ漢越語知識のストラテジー選択への影響、そもそも「漢越語知識」とはどのようなものであるのかという議論は不十分なままである。

3. 調査

本研究では、ベトナム語母語話者のベトナム語の知識、特に漢越語の意味把握に焦点を当てる。松田他 (2008) の調査にもとづいた「日越漢語対照データベース」(以下、

「漢越語DB」) でAB/AB 語とされた語は 1331 語あり、その中にその意味を表す他の語が存在しない、つまり日本語の語彙と最も一致度が高いと考えられる語は 764 語³⁾ がある。しかしながら、764 語全てについて調査することは調査協力者に過度な負担を強いることになるため、漢越語との日常的な接触が漢字学習への利用可能性に影響を与えるという先行研究の知見 (ファン他 2022) に基づき、本研究では 764 語の中からベトナム語母語話者にとってなじみ深い、つまり親密度⁴⁾ が高い語 10% と、低い語 10% を抽出して対象とすることにした。

調査は、上述の 764 語から対象とする語を抽出するための語の親密度調査 (調査 1)、調査 3 に向けた仮説生成のための質的な意味再現調査 (調査 2)、仮説検証のための量的な意味再現調査 (調査 3) の 3 つに分かれる。本稿では、2024 年 6 月時点で終えている調査 1 と調査 2 の結果について述べる。

3.1 調査 1

調査 1 では調査 2 以降で対象とする語の抽出のため、「漢越語DB」の中で日本語の語彙と最も一致度が高いと考えられる 764 語について、語の親密度の調査を行った。764 語を 17 枚に分けて質問紙を作成し、それぞれの語のなじみ深さを判定した。親密度の評定は天野・近藤 (1999) が 1995 年～1997 年に行った日本語の語の親密度調査に倣って 7 段階評定とし、質問紙は Google Forms で、全てベトナム語で作成した。2023 年 8 月、ベトナムの教育機関や個人の調査協力者に質問紙の URL を送付し、調査協力への同意が得られた 731 件⁵⁾ の有効回答を得た。被験者は 10 代～40 代、最終学歴は高校～大学とさまざまで、日本語学習歴がある者が多かったが、全く日本語を学習したことがない者もいた。しかし、今回の調査は母語であるベトナム語の親密度調査であるため、日本語学習歴の有無による区別はしていない。

分析の結果、語全体の親密度の平均値は 5.24、標準偏差は 0.37～2.78 であった。続いて平均値の上位と下位約 10% にあたる 76 語ずつを抽出した。上位 76 語の平均値は 6.40、標準偏差 0.37～1.61、下位 76 語の平均値は 3.59、標準偏差は 1.64～2.73 だった。

抽出された親密度上位語は、MỤC TIÊU (目標)、KỸ NĂNG (技能)、MỤC ĐÍCH (目的)、BÁO CÁO (報告)、NHIỆM VỤ (任務)、PHÂN LOẠI (分類)、VĂN MINH (文明)、XÃ GIAO (社交) など、抽象的な概念を表す語が多かった。一方、親密度下位語については、VĨ ĐỘ (緯度)、ÔN ĐỚI (温帯) といった学校教育の教科に関わるような語や専門的な語、HẠ TUẦN (下旬)、THƯỢNG TUẦN (上旬) のように非常に古くて現代ではほとんど使われない語、NÔNG DƯỢC (農薬) のように別の言葉 (この場合 THUỐC TRỪ SÂU (殺虫剤) が一般的に使用されている) に置き換えられる語などが含まれた。

このように、「漢越語DB」の AB/AB 語にはベトナム語母語話者にとってなじみ深い語が非常に多い一方で、現代ベトナム語ではあまり使用されない語が含まれている

ことが明らかになった。調査2では、調査1の結果をもとに親密度が高い語と低い語の両方について、ベトナム語母語話者が正確にベトナム語としての意味が把握できているのか、日本語と同意義で認識しているのかを明らかにする。

3.2 調査2

調査2は、調査1による親密度調査の評定値の上位語76語 ($M = 6.40$, $SD = .14$) と下位語76語 ($M = 3.58$, $SD = .26$) を対象とする。なお、上位語と下位語の両グループには統計的有意差が認められた ($t(98) = 62.97$, $p < .001$)。これらについての質的な意味再現調査を行うため、合計152語の漢越語を約15語ずつランダムに並べ、意味を記述するための欄を設けた質問紙を10種類用意した。質問紙の指示文は「その語を直接使わずに（他のベトナム語で）意味を説明してください」とし、知識を評価するための調査ではなく、回答は推測で書いて構わないことを付記した。質問紙は全てベトナム語で作成し、回答も全てベトナム語で行わせた。

調査は2023年9月にハノイにある、日本への技能実習生の送り出し機関Aの在籍者23人とB大学（日本語専攻1年生）の在籍者7人の協力を得て実施した。Aに在籍する協力者は日本語学習歴3か月未満、Bは1か月未満であり、漢字学習の経験はAの協力者4人を除いてほぼ無かった⁶⁾。なお、調査当時の年齢はA在籍者が平均22歳（うち不明1名）、B大学在籍者は全員18歳だった。現地で執筆者の1人がインフォームド・コンセントと調査説明を行い、調査協力への同意が得られた者に対して記入を依頼し、質問紙への記入にも立ち会った。1人1～3枚記入してもらい、1語につき7～8人による回答を得た。

回答を回収した後、全回答のうち最低1人以上が日本語と異なる意味、ずれた意味を再現したものについて検討を行った。日越両言語話者である執筆者らによってその理由が両言語の語義的側面から解釈可能であるものを抽出した。その結果、親密度上位語の10語、親密度下位語の26語について、日本語と異なる意味やずれた意味が複数再現され、かつベトナム語の語彙の意味的特徴からそれが偶発的なものではないと判断した。ファン他（2022）が述べるように、日本語と異なる意味が再現された語には日常的な接触が少ない（なじみ深くない）語が多い結果となった。それらの語を表1に示す⁷⁾。

また、ずれた意味について執筆者たちで協議を行い、異なりの種類として、「①ベトナム語本来の意味とは異なるが、日常の使用文脈に影響を受けている（2語）」「②両言語で意味が重ならない部分や、日本語では想起されにくい部分が想起された（14語）」「③その漢越語を知らない（20語）」という3つのパターンが見られると判断した。

「①ベトナム語本来の意味とは異なるが、日常の使用文脈に影響を受けている語」の代表的なものは「TẠP HÓA（雑貨）」と「XÍCH ĐẠO（赤道）」である。「TẠP HÓA」

は日本語と同じく「雑貨」、つまり「物」を指す語であるが、“Nơi có đa dạng các loại mặt hàng.” (いろいろな商品が揃う場所)、“Nơi buôn bán đủ các loại hàng hóa khác nhau.” (いろいろな種類の商品を販売する場所) などほぼ全員が「Nơi (場所)」という語を用いていた。通常、小規模な雑貨を販売する店を TẠP HÓA と呼び、実際に現地では商店の看板にもこの語が掲げられていることから、ベトナム語母語話者は「TẠP HÓA」という「雑貨」そのものではなく、「雑貨店」を想起することが多いようである。また「XÍCH ĐẠO (赤道)」については、本来ベトナム語においても日本語同様に「赤道」を指すが、“Khí hậu nóng.” (暑い気候) という回答が見られた。これは、ベトナムの中等教育 (7年生⁸⁾) の地理の教科書に「熱帯気候」が“Đới khí hậu xích đạo” (赤道気候帯) として提示されるため、その学習経験から影響を受けた想起であると考えられる。

表 1 異なる意味が再現された語

親密度 上位語	TẠP HÓA (雑貨)、LAO ĐỘNG (労働)、ÁP LỰC (圧力)、GIA VỊ (加味)、SẢN XUẤT (産出)、QUY MÔ (規模)、VỊ TRÍ (位置)、YÊN TĨNH (安静)、CHỈ HUY (指揮)、BẢO QUẢN (保管)
親密度 下位語	XÍCH ĐẠO (赤道)、NIÊN ĐẠI (年代)、TỐI CAO (最高)、BỘ THỦ (部首)、CHUYÊN CHẾ (専制)、THẦN THÁNH (神聖)、HÀN ĐỚI (寒帯)、TU HỮU (私有)、HẢI LƯU (海流)、PHỦ QUYẾT (否決)、NỘI CÁC (内閣)、PHẢN ĐỐI (反対)、LƯU VỰC (流域)、CHÍNH ĐẢNG (政党)、LẬP THỂ (立体)、KHAI THÔNG (開通)、NHÃN KHOA (眼科)、THƯỢNG TUẦN (上旬)、TRUNG TUẦN (中旬)、HẠ TUẦN (下旬)、PHONG THỔ (風土)、NỘI TUYẾN (内線)、NÔNG DƯỢC (農薬)、NIÊN GIÂM (年鑑)、CHẤN HƯNG (振興)、CHÍNH ĐƯƠNG (正当)

続いて、「②両言語で意味が重ならない部分や、日本語では想起されにくい部分が想起された」の代表的なものとして、「GIA VỊ (加味)」、「KHAI THÔNG (開通)」がある。日本語の「加味」は、『新明解国語辞典』(2012) (以下、『新明解』) によると「【味をつけ加える意】ほかの物が持っている要素を取り入れること。」とあり、「成績の評価に、出席点を加味する／伝統的な日本建築に洋風の様式を加味した建物」という文例が示されている。「味を付け加える意」とはあるものの、文例から現代日本語では味覚に関する使用法は一般的ではないようである。一方、本調査の回答をみると、“Giúp cho món ăn, đồ uống trở nên có vị.” (食べ物や飲み物に味をつけるのに役立つ。)、 “Là các thành phần được cho vào khi nấu ăn, giúp đỡ ăn ngon và đúng vị.” (調理時に加えられ、風味と味を整えるのに役立つ成分。) という味覚に関する記述や、“Những vị mà lưỡi có thể nếm được như mặn, ngọt, hoặc những hương vị, cung bậc cảm xúc trong cuộc sống.” (舌で感じる塩辛い、甘いといった味、また人生の中のさまざまな味わいや感情のグラデーション。) のように、味覚に関する意味を拡張させた記述も見られたが、いずれにしても日本語の「加味」にあるような、味覚以外の用法に重なる記述は見られなかつ

た。また、日本語の「開通」については、『新明解』は「鉄道・道路・電話などの設備が完成して、使われ始めること。通じること。」とあり、使用場面はかなり限定的である。ところが、*Từ điển Tiếng Việt* (2020) では“*Làm cho thông, cho không còn bị cản trở, tắc nghẽn nữa.*” (遮られたり、詰まったりしないように通す。)、 “*Làm cho mở mang trí óc.*” (知識を広げる。) と意味の範囲が広い。両言語間ではベトナム語の前者の意味しか重ならないが、本調査ではほとんどの協力者がベトナム語の后者の意味を回答している。

このように、①と②については、親密度が高い語も多かったが、実際のベトナム語母語話者の把握している意味と日本語の意味に異なりやすれが見られた。これにより、日本語の理解を誤る恐れがあり、特に違いが大きい場合は日本語の語彙学習への即時利用は難しくなると考えられる。

最後に、「③その漢越語を知らない」については「*THƯỢNG TUẦN* (上旬)」、 「*TRUNG TUẦN* (中旬)」、 「*HẠ TUẦN* (下旬)」、 「*CHÍNH ĐẢNG* (政党)」、 「*LIU VỰC* (流域)」などがあり、「わからない」という回答が目立った。これらの多くは親密度下位語であり、古くて現代ベトナム語ではほとんど使われない語であった。③のように漢越語の意味を知らずに日本語の語彙を学習する場合、二字のいずれかを頼りに推測を行うことになり、結果的に誤った意味が再現される可能性がある。例えば、「*CHÍNH ĐẢNG* (政党)」では“*Đảng đại diện, lớn nhất của một đất nước.*” (国において最も大きく、代表的な党) や、“*Liên quan về nhà nước.*” (国家に関係がある。) という回答が見られた。*ĐẢNG* (党) はベトナムにおいてベトナム共産党を指すために使われることが多い語であるため、そこから推測し、上記のような回答となったと考えられる。また「*LIU VỰC* (流域)」は、“*Độ sâu, hoặc cao ở các con sông, núi.*” (川や山などの深さ、高さ。) や、“*Vách núi cao, sâu.*” (高くて険しい崖。) などの回答が見られた。これは一般的に「*Vực*」が峡谷や川、湖などの深みを指すことからの連想であろう。さらに、「*HẠ TUẦN* (下旬)」では“*Cuối tuần.*” (週末) という回答が見られたが、これは *HẠ* が「下」に対応することを知っていること、さらに *TUẦN* を「旬」ではなく、ベトナム語で一般的に使用される“*Tuần lễ*” (週) だと判断し、意味を推測していると考えられる。このように、現代ベトナム語の文字表記において漢字が使用されていないことにより、同音異義語で漢越語、純粹ベトナム語等の区別が難しい場合があり (Trần 2015)、同表記の語では多様な解釈が可能となる。それが推測をより困難にしていると考えられる。また、現在のベトナムの教育で漢越語の知識を十分に得られないということも背景にある。Nguyễn (2011) は日本の中学1年生にあたる7年生の国語(ベトナム語)で漢越語について学ぶが、その後はほとんど漢越語の知識を深める学習機会がないと述べている。このような背景から漢越語の知識は限定的となり、今回の調査結果のようにそれぞれの憶測で意味を判断することになると考えられる。

4. おわりに

漢越語のAB/AB語は、日本語学習に最も利用可能性が高い語とされるが、ベトナム語母語話者のなじみ深さは一様ではなく、日本語の意味範囲や使用範囲とは異なりが生じている語があることが本調査の結果により明らかになった。AB/AB語の中には、一部日本語学習への利用が困難な語もあれば、誤解に繋がる語もあると考えられる。このように、日本語教育において新出語を学ぶ際に同文字の漢越語のみを訳語として提示した場合、日本語と同様の意味を把握できない可能性があるため、辞書上の語義の一致だけではベトナム語母語話者の漢字語教育・学習に漢越語が利用可能とは一概には言えない。その一方で、今回の調査の範囲では日本語の語義の一部と一致、あるいは隣接した意味が多かったことから利用可能性は決して否定できず、学習者の言語使用実態についてのより細やかな調査によって漢越語の利用可能性を高めるような教材や指導方法が開発可能であろう。本調査で用いた意味再現テストを授業に取り入れることも1つの方法として考えられる。

しかし、本研究の課題の1つとして、調査2が質的調査で協力者は30名と限定的であるという点があり、今後は本調査の結果をもとに量的調査を行う予定である(調査3)。さらに本研究のもう1つの課題は、調査した語の範囲が限られていることである。調査2で扱ったのはAB/AB語のうち152語であり、旧日本語能力試験出題基準の漢字語を網羅しているわけではなく、限定的なものである。今後は語彙の範囲を広げていき、日本語学習のニーズが増えつつある介護などの専門的な語彙の分析も検討する。

注

- 1) 純粹ベトナム語とは、出自を問わずに、ベトナム人が共時感覚で固有語と認識するものでベトナム語の基礎語彙をなしているものを指す。
- 2) 現代ベトナム語では漢字を使用しないが、漢字で表した場合に同文字を使用するという意味で同文字とする。
- 3) 「漢越語DB」の中に○語(日本語の語彙と最も一致度が高いと考えられるものに丸印をつけた語)は768語あるが、検討した結果、以下の4語については削除した。①階段“GIAI ĐOẠN”：ベトナム語“GIAI ĐOẠN”は日本語の「段階」を表すので、AB/ABではない。②現像“HIỆN TƯỢNG”：同音異義語で「現象」“HIỆN TƯỢNG”がリストにあったため。③没収“TỊCH THU”：正しい漢越語は“MỘT THU”であり、“TỊCH THU”は「籍収」である。④慢性“MÃN TÍNH”：正しい漢越語は“MẠN TÍNH”であり、“MÃN”は“MẠN”の越化音である。
- 4) 語の親密度(word familiarity)とは、調査対象者のその語に対するなじみ深さを表すものである(天野・近藤 1999)。多数の被験者に刺激語を与え、主観的ななじみ深さの程度に基づいて評定を行い、それを平均化した値を求める。

- 5) 同一回答者による複数回答を含む。
- 6) Aの協力者4人以外は漢字学習を開始していないか、漢数字などを学んだのみだった。
- 7) 厳密には品詞等の相違があったが、本調査では意味の面の相違のみに着目した。
- 8) 7年生は日本の中学校1年生に相当する。

付記

本稿は2024年専門日本語教育学会研究討論会のポスター発表をもとに執筆した。

参考文献

- 天野成昭・近藤公久(1999)『NTTデータベースシリーズ日本語の語彙特性』(1)三省堂
- 天野裕子(2021)「ベトナム語母語話者の日本語語彙学習ストラテジーに関する基礎研究」
[博士論文, 九州大学] <https://hdl.handle.net/2324/4784713>
- 佐藤章太(2019)「現代ベトナム語の漢越語が持つ固有語的特徴—中等教育数学用語の体系的分析を通して—」『言語情報科学』17, 19-35
- 富田健次(2001)『ベトナム語 はじめの一步まえ』DHC
- ファン、ティ、ミー、ロアン・道上史絵・比留間洋一(2022)「ベトナム人中上級日本語学習者の漢字習得における漢越語利用—介護福祉士国家試験対策の考案に向けた基礎研究—」『外国語教育のフロンティア』5, 55-71
- 松田真希子(2016)『ベトナム語母語話者のための日本語教育—ベトナム人の日本語学習における困難点改善のための提案—』春風社
- 松田真希子・タン、ティ、キム、テュエン・ゴ、ミン、トゥイ・金村久美・中平勝子・三上喜貴(2008)「ベトナム語母語話者にとって漢越語は日本語学習にどの程度有利に働くか—日越漢字語の一致度に基づく分析—」『世界の日本語教育』18, 21-33
- 松田真希子・ゴ、ミン、トゥイ・タン、ティ、キム、テュエン・金村久美・中平勝子・三上喜貴・永野建二郎(2023)「日越漢語対照データベース」<https://www.matsudamakiko.com/hanviet> (2023年10月31日最終閲覧、2025年1月24日現在確認できず)
- 山田忠雄編(2012)『新明解国語辞典』(第7版)(電子辞書、カシオ)三省堂
- Phan, T. M. L. (2006)「ベトナム人日本語学習者に対する効果的漢字指導法」[未公開博士論文] 大阪外国語大学
- Nguyễn, T. L. (2011) Vấn đề dạy từ Hán Việt cho học sinh trung học phổ thông (高校生に対する漢越語の教授に関する課題), *Tạp chí Ngôn ngữ và Đời sống*, Số 6, 5-9.
- Trần, T. K. A. (2015) Khả năng nhận biết và xu hướng sử dụng từ Hán Việt của học sinh-sinh viên (学生の漢越語認識能力と使用傾向), *Tạp chí Phát triển KH & CN, Tập 18, X2-2015*, 5-15.
- Trung tâm Từ điển học. (2020) *Từ điển Tiếng Việt (có chú chữ Hán cho từ ngữ Hán Việt) (4th ed.)*. (ベトナム語辞典) Nhà xuất bản Đà Nẵng.